

## 国語科における「つながり」を意識した授業づくり

——中学二年生前期の単元計画を中心に——

世 良 裕紀子

### 一 はじめに

学習者が目を輝かせて学び、国語の時間が待ち遠しくなるような授業を行いたい。そんな思いを実現するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行ってきた。稿者は、この「主体的・対話的で深い学び」について、田村学（二〇一八）の論に基づいて考えている。特に、田村は「深い学び」について以下のように述べている。

「深い学び」とは、「知識・技能」が関連付いて構造化されたり、身体化されたりして高度化し、駆動する状態に向かうこと

この論を踏まえて、稿者は、知識や場面が相互に「つながり」をもつことで、「深い学び」に迫ることができるのではないかと考えた。本稿では、中学二年生に対する実践を中心に、「つながり」を意識した授業づくりについて報告する。

### 二 「つながり」を意識した授業づくり

#### （一）中学二年生前期の単元計画

広島市立温品中学校二年生は、三十人程度の三学級で、稿者がその全クラスを四月から新たに受けもつようになった。その温品中学校二年生を対象とした今年度（二〇一九年度）前期の単元計画を次頁から示す。なお、本単元計画は、二〇一九年八月現在のものである。

#### （二）単元計画作成の意図

田村（二〇一八）は、「深い学び」に迫るために必要な知識の構造化を「宣言的な知識がつながるタイプ」「手続きの知識がつながるタイプ」「知識が場面とつながるタイプ」「知識が目的や価値、手応えとつながるタイプ」の四つに分類しているが、その中で、「知識と場面がつながるタイプ」の知識の構造化を意識して、稿者は単元計

表1 温品中学校2年生前期の単元計画

|    | 単元名   | 題材名                                |
|----|---|------------------------------------|
|    | 学習内容の概要                                     |                                    |
| 1  | 穴埋めで授業のきまりを覚えよう                             |                                    |
|    | 重要な部分とよく書き間違える漢字が空欄になっており、そこに聞き取ったことを記入する。  |                                    |
| 2  | 群読を通して詩を味わおう                                | 牟礼慶子「見えないだけ」                       |
|    | 「手引き」を用いて群読を考え、発表会を行うことで、表現技法の効果や作者の心情に迫る。  |                                    |
| 3  | クライマックスを予想しよう                               | 椎名誠「アイスプラネット」                      |
|    | 選択肢からクライマックスだと思ふ場面を選び、議論することで、主人公の心情を読み取る。  |                                    |
| 4  | 情景を想像して暗唱しよう                                | 清少納言「枕草子」                          |
|    | 秋の章段は半分に分け、冬の章段は他の季節との違いを考えることで、情景を想像する。    |                                    |
| 5  | 職場体験先を見つけよう                                 | 「要点を整理して聞き取る」                      |
|    | 職場体験先の方の話を聞き取り、体験先を地図から探すことで、メモの取り方を身につける。  |                                    |
| 6  | 本文の内容をQ&Aにまとめよう                             | 佐藤克文「生物が記録する科学—バイオロギングの可能性」        |
|    | 本論をQ&Aの形で整理し直すことを通して、論の展開の工夫に気付く。           |                                    |
| 7  | 例を見つけて熟語の構成を理解しよう                           | 「熟語の構成」                            |
|    | 熟語の構成ごとに例を見つけて発表することで理解を深め、四字熟語はカルタで覚える。    |                                    |
| 8  | 分かりやすく表にまとめよう                               | 池上彰「メディアと上手に付き合うために」               |
|    | 構成を捉えた後、本論を要約して表の形式にまとめる。                   |                                    |
| 9  | 文字のバランスに気を付けて書こう                            | ※光村図書 中学書写「文字の大きさと配列」              |
|    | 仮名より漢字の方を大きく書くことを伝え、プリントで書写の練習を行う。          |                                    |
| 10 | マッピングを使って作文しよう                              | ※広島市教育委員会「青少年からのメッセージ 誰かのためにできること」 |
|    | 「誰か」「できること」の観点でマッピングをして構成を考え、作文を書く。         |                                    |
| 11 | 類義語・対義語・多義語を見つけよう                           | 「類義語・対義語・多義語」                      |
|    | 班で協力して類義語・対義語・多義語のプリントを完成させることで、言葉の量を増やす。   |                                    |
| 12 | 短歌にぴったりの絵を選ぼう                               | 馬場あき子「新しい短歌のために」                   |
|    | 短歌ごとに3つの絵を提示し、どれが最も短歌の情景に合うのか考えることで、情景を捉える。 |                                    |
| 13 | 短歌の魅力をプレゼンテーションしよう                          | 「魅力的な提案をしよう」<br>「短歌を味わう」           |
|    | 短歌の魅力についてプレゼンテーションすることで、情景や筆者の工夫に気付く。       |                                    |
| 14 | エピソードを挙げた理由を考えよう                            | 大岡信「言葉の力」                          |
|    | 着物のエピソードをなぜ挙げたのか考えることを通して、筆者の主張に迫る。         |                                    |
| 15 | 単語カードを分類しよう                                 | 「単語をどう分ける？」                        |
|    | 学んだことをもとに、カードを分類する活動を繰り返すことで、単語の働きを理解する。    |                                    |
| 16 | 「えびフライ」の表現の変化を考えよう                          | 三浦哲郎「益土産」                          |
|    | 「えびフライ」の表現の変化をヒントに、主人公の心情の変化を考える。           |                                    |
| 17 | 主題は何か議論しよう                                  | 向田邦子「字のない葉書」                       |
|    | 主題は「戦争の悲惨さ」か「家族の愛情」か議論することで、読解の手法を身に付ける。    |                                    |
| 18 | 本文の内容をリーフレットにまとめよう                          | 安田喜憲「モアイは語る 一地球の未来」                |
|    | 本文をQ&A等を用いてリーフレットにまとめ、筆者の論の展開について自分の意見をもつ。  |                                    |
| 19 | 場面の状況と心情が伝わる群読劇をしよう                         | 「平家物語」扇の的                          |
|    | 群読劇での表現を通して、場面の状況や与一の心情について読み取る。            |                                    |

題材名の欄に※印が付いているもの以外はすべて光村図書「国語2」に収録されている教材である。太線部までは、今年度すでに実施済みの単元であり、太線部からは、夏休み明けに実施予定の単元である。左端には、通し番号を付した。

画を作成した。田村は、「知識と場面がつながるタイプ」の知識の構造化は、次の四つの段階を経てなされると述べている。

- 1 各教科等の特別な場面や状況で学んだ個別的な知識が獲得される。
- 2 知識が様々な場面、つまり「あそこでもここでも」使われるのではないかという感覚と気付きを得る。
- 3 場面や状況とつながった知識は、汎用的に自由自在に活用・発揮できるようになり、高度化する。
- 4 問題解決のために自分が保持している知識のどれが使えそうか選択し、当該の場面や状況に適合させ、必要に応じてさらに知識を組み合わせる。

この論に基づいて知識の構造化を図るために、稿者は、ある授業（場面Ⅰ）で学んだ知識・技能に、他の授業（場面Ⅱ）と意図的につながりをもたせていった。具体的には、表1の単元同士には、下の表2に示すような知識・技能において、つながりをもたせている。また、表2に示したつながりのもたせ方の質的な異なりを稿者は、次の三種類に分類した。

①題材は異なるが、似た活動の中で知識・技能を活用しているもの  
 基本的な読解の手法に用いたつながりのもたせ方である。これにより、読解の手法が「あの文章でもこの文章でも」使えるという感覚を学習者に与えることができる。また、文学的文章と説明

表2 表1の単元同士のつながり

| 知識・技能           | 場面Ⅰ |                        | 場面Ⅱ     |  | 種類 |
|-----------------|-----|------------------------|---------|--|----|
| 群読の仕方           | 2   | 詩の群読                   | 19      | 古文の群読劇                                 | ②  |
| 発表の仕方           |     | 詩の群読                   | 13      | プレゼンテーション                              | ②  |
| 三角ロジック          | 3   | クライマックスについての議論         | 17<br>* | 主題についての議論<br>「根拠を明確にして意見を書こう」<br>作文の構成 | ③  |
| 対比を用いた読解の手法     |     | 主人公と対役の人物像の読解          | 18<br>* | イースター鳥と地球の対比<br>太宰治「走れメロス」人物像の読解       | ①  |
| キーワードに注目した読解の手法 | 4   | 「ありえねえ」で読み解く<br>心情の変化  | 16      | 「えびフライ」で読み解く<br>心情の変化                  | ①  |
| 古文のリズム          |     | 古文の暗唱                  | 19      | 古文の群読劇                                 | ②  |
| メモの取り方          | 5   | 職場体験先の方の話（授業者が範読）の聞き取り | 13      | 級友のプレゼンテーション内容の聞き取り                    | ②  |
| 問いと答えに注目した読解の手法 | 6   | Q&A                    | 18      | Q&Aを含めたリーフレット                          | ②  |
| 要約の手法           | 8   | 本論と結論の読解               | 13      | 発表に向けたスライド作成                           | ③  |
| インターネット上の情報の特徴  |     | 本文の内容                  |         | インターネットを使った材料集め                        | ③  |
| 漢字と仮名を調和させる書き方  | 9   | 理解とプリント演習              | 13      | スライドの作成                                | ②  |
|                 |     |                        | 18      | リーフレットの作成                              |    |

場面ごとの番号は、表1における通し番号であり、\*は、後期の授業として構想しているものである。種類の①～③は、次頁で述べるつながりのもたせ方の分類番号である。

的文章の垣根を越えて用いることもできる。

- ②似た活動だが、発展的な場面で知識・技能を活用しているもの  
技能的な側面が大きい内容に用いたつながりのもたせ方である  
一度目で知識の確認のもと技能を習得し、二度目の場面では、少し発展させた状況で技能の定着を図る。その際、一度目の授業準備で二度目の内容を想定しておき、同じ手引き等を用いて活動を行うと、よりつながりが明確化される。例えば、詩の群読の授業で用いた下の手引きには、「平家物語」の「扇的」の部分の群読を想定して、効果音の工夫や役割演技の項目を作っている。

- ③全く違う活動の中で、知識・技能を活用しているもの  
文章の読解など内容を取り込むために用いた知識・技能を、作文など内容を表現するために用いることができる場合等、異なる活動同士のとつながりのもたせ方である。このつながりを学習者が捉えることができれば、田村の述べる「知識と場面がつながるタイプ」の最終段階まで至れていると言えるそうだ。

### 三 「つながり」を意識した授業実践

#### (一) 基本情報

単元名…短歌の魅力プレゼンテーションしよう  
題材名…「魅力的な提案をしよう」「短歌を味わう」

(光村図書『国語2』)

#### 群読の手引き

- 一 読む人数による工夫
- ①個人読み ☆十分に声を出し、言葉をはっきりと。感情豊かに。
  - ②複数読み 二人で読む部分  
(男性のみで読む部分、女性のみで読む部分)  
全員で読む部分 ☆声をそろえて、迫力満点に。  
一人で読む↓二人で読む↓三人で読む↓全員で読む  
全員で読む↓三人で読む↓二人で読む↓一人で読む
- 二 効果音による工夫
- ①群読が始まる前 場面の雰囲気を作り出して群読劇を始めることができる。
  - ②群読と同時進行 状況に合った音を表現することで、場面の状況を表すことができる。
  - ③群読の合間 場面の状況を想像させ、余韻を残すことができる。
- 三 表現の仕方による工夫
- ①感情移入 明るく、元気に、いきいきと、きつぱりと、さわやかに  
騒がしく、しみじみと、穏やかに、必死に、淡々と、寂しく  
暗く、苦しそうに、空しく、おどおどと、嫌味っぽく
  - ②対句表現 二つに分かれて読む。
  - ③反復 強調や場面の表現のために、同じ部分を繰り返し読む。
  - ④輪唱 タイミングをずらして読み進めていく。
- 四 動きによる工夫
- ①役割演技 ○○役になっての動きや台詞の表現、△△の動きの再現。
  - ②立ち位置 二つに分かれて読んだり、場所を移動して読んだりする。  
(教室の前後に分かれて読む、教室の四隅に散らばって読む)
  - ③立つ座る 読む人が立ち、読まない人は座るなどの工夫。

実施時期…二〇一九年七月

学習者…広島市立温品中学校二

年生

指導目標…

・相手と目的を意識して、魅力的なプレゼンテーションを行うことができる。

・情景を想像したり作者の工夫に気付いたりしながら、短歌を読み味わうことができる。

本実践における、既習事項とのつながりは下の表3に示す五点である。

## (二) 指導計画

【第一次 プレゼンテーションと短歌について知る】(二時間)

目標…魅力的な提案のポイントに気付き、短歌の表現技法を見つけることができる。

内容…プレゼンテーションのモデルを見て、魅力的な提案のポイントを考える。

※プレゼンテーションの相手はクラスメートで、目的は短

表3 今までの授業内容と本単元の「つながり」

| 知識・技能          |   | 今までの授業内容               | 本単元の内容              | 種類 |
|----------------|---|------------------------|---------------------|----|
| 発表の仕方          | 2 | 詩の群読                   | プレゼンテーション           | ②  |
| メモの取り方         | 5 | 職場体験先の方の話(授業者が範読)の聞き取り | 級友のプレゼンテーション内容の聞き取り | ②  |
| 要約の手法          |   | 本論と結論の読解               | 発表に向けたスライド作成        | ③  |
| インターネット上の情報の特徴 | 8 | 本文の内容                  | インターネットを使った材料集め     | ③  |
| 漢字と仮名を調和させる書き方 | 9 | 理解とプリント演習              | スライドの作成             | ②  |

歌の魅力を伝えること。スライドは手描きしたものを撮

影し、テレビに映し出して発表する。

短歌六首を視写し、表現技法を確認する。

二首付け加え、班ごとに担当する一首を選ぶ。

【第二次 プレゼンテーションの材料集めをする】(一時間)

目標…メディアの特徴に留意して材料を集めることができる。

内容…インターネットを用いて短歌について調べ、分かったことをノートにメモする。

【第三次 プレゼンテーションの準備をする】(三時間)

目標…情景を想像したり、作者の工夫に気付いたりしながら短歌を読み味わい、相手と目的を意識したプレゼンテーションにまとめることができる。

内容…手引きを参考に、プレゼンテーションの進行案を作成する。良くないスライドの例や発表の仕方を見て、どこが悪いのか考え、スライド作成や発表練習に活かす。

【第四次 プレゼンテーションをする】(二時間)

目標…相手と目的を意識してプレゼンテーションをすることができる。

内容…各班がプレゼンテーションを行い、聞き手は短歌の魅力についてメモを取りながら聞く。

単元全体の振り返りを行う。

### (三) 授業の実際

第一次では、モデルを示したことで、学習の見通しがもてたようであった。「先生のプレゼンテーションを超えてもいいんですよ」という発言が飛び出すなど、意欲的な姿勢が見られた。

第二次、第三次では、「スライドは一人一枚作成する」等、どの内容も必ず班で分担したり、協力したりしなければならぬようにルールや時間の設定を行った。これにより、短歌について調べる内容を班で分担したり、解釈や発表の工夫について話し合ったりするなど、学習に自然と対話が生まれていた。

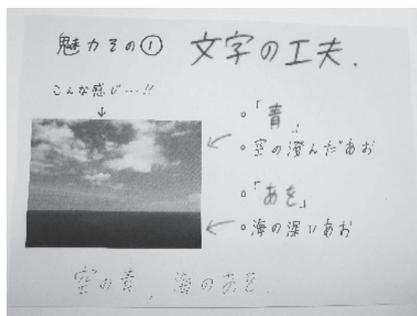
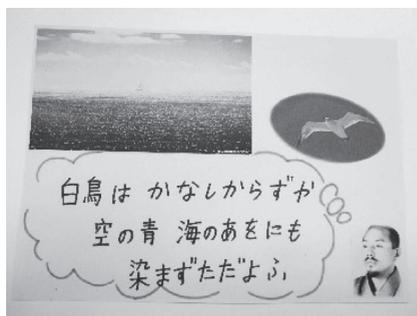
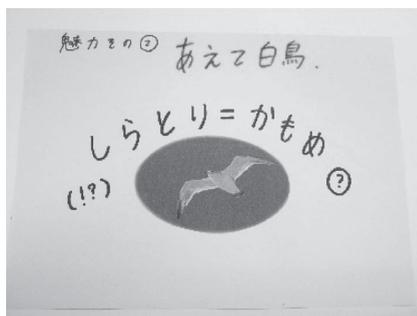
まとめとなる第四次では、工夫を凝らした発表が行われた。学習者が発表に用いたスライドを左に示すが、この班のプレゼンテーションに見られるように、クイズを行って相手の興味をひいたり、表記や言葉選びに注目して短歌の魅力を伝えたりする班が多く見られた。発表後の質疑応答では、最初はあまり質問が見られなかったが、発表が進むにつれて、質問の観点を捉えてきた様子で、多数の質問がなされるようになった。

その中でも、既習事項とのつながりに関する事例を三つ紹介する。

#### 【事例一 インターネット上の情報の特徴】

第二次で「夏のかげ山よりきたり三百の牧の若馬耳ふかれけり」（与謝野晶子）について調べた班から、第三次第一時に質問があった。その時のやりとりを次に示す。

学習者「先生、この短歌って、三句切れなんですか？」



稿者 「みんなは何句切れだと思っただけですか？」

学習者 「私たちは短歌の意味的に、二句切れじゃないかと思ってたんですけど、調べた(ウェブ) サイトには三句切れって載ってる、なんで三句切れなのか分からなくて…」

稿者 「先生も二句切れだと思うよ。サイトはいくつ見たの？」  
学習者 「あー…」(質問の意図を理解した様子)

稿者が授業後に実際に調べてみると、短歌を直接入力して検索した際に一番上に表示されるウェブサイトには「三句切れ」と書かれてあったが、他では「二句切れ」と紹介されていた。

### 【事例二 メモの取り方】

第四次でプレゼンテーションを行っている際、聞き手に注目してみると、下の学習者のノートの例のように、「短歌の内容」を④「短歌の魅力」を③などと省略して書く者や、矢印等を用いてまとめる者などが見られた。

### 【事例三 質疑応答と図】

学習者Aの班は、「校庭の地ならし用のローラーに座れば世界が夕焼け」(穂村弘)について、次のような内容をプレゼンテーションした。

魅力二…「地ならし用のローラー」という言葉から、かもし出される昭和感。

7/18 魅力提案しよう

クラスの皆に短歌の魅力を伝えよう

④(馬場 あま子の短歌)

つばめは空を飛び、私用水を泳ぐ。

③(表規 技法 たまご (対句、倒置法、件言止めなど))

あえてひらかなばにやう (つばめとわ水を対比)

②(印象のこりややくするため)

①(栗木 京子の短歌)

観覧車は回り続けてほしい。私にとては一生の空物、君にとては

①(私にとては一生) 対句

私の方が何十倍も思いが強い

②(大切な人と) 永遠に回り続けてほしい

③(回水) 回れやめくろめくろの思い

④(私の方が何十倍も思いが強い)

⑤(穂村弘の短歌)

⑥(ローラー) 地ならし用のローラーは空が近く、世界中が夕焼けではないのか。

⑦(口語) やわらかい、親しませます

⑧(Q 学生時代の短歌)

A 校庭に出ていよから

⑨(リズム) をかえてほしかった?

質問に対して明確にしている

①(大まかな声で) はまりとよ、ていて

⑤(質問の) うけつたえがてました。



れは「マッピングを使って作文しよう」(表1・10)の授業で使ったマッピングの手法を使おうとしたものだと言った。

#### (四) 授業の分析と考察

【事例一】では、池上彰「メディアと上手に付き合うために」(表1・8)で学んだ「インターネットでは、誰でも気軽に情報を発信できるため、誤った情報が多い」という知識が、インターネットでの調べた内容に違和感を覚えるという場面とつながり、実体験となつて学習者に理解されたことが分かる。

次に、【事例二】では、学習者が「要点を整理して聞き取る」(表1・5)で学んだ「メモは、矢印などの記号や小見出しを使ったり省略して書いたりすると取りやすい」という知識を、短歌のプレゼンテーションを聞くという場面に自ら当てはめて、活用している姿が見られた。

また、【事例三】では、学習者Aが短歌の解釈をするための材料がないという困った状況の中で、不十分ではあるものの「マッピングを使って作文しよう」(表1・10)の授業で用いた思考ツールを活用しようとする姿が見られた。確かに、短歌の少ない言葉を中心に想像を広げるためには、マッピングは有効な手段であると思う。そして、そこから発想を広げ、馬場あき子「新しい短歌のために」(表1・12)で学んだ「文語と口語の印象の違い」や、「地ならし用のローラーを今はあまり見ない」という稿者の助言、「部活終わりに達成感がある」という生活体験をつなげながら、発表や質疑応答を行ったのではないだろうか。

このように、既習事項と意図的につながりをもたせて単元を構想することで、学習者自身の気付きを促し、知識の構造化を経て「深い学び」の獲得に近づくことができるという成果が得られた。さらに、意図しない場面でも、困難な状況を打開するために学習者自身が、既習事項とつながって考え、知識を構造化して「深い学び」を獲得する姿も捉えることができた。稿者は、意図的に単元につながりをもたせていくことは、学習者Aのように授業者の意図を超えて、自分自身で学びをつなげていく学習者を育むことにつながるのではないかと考える。

しかしながら、マッピングの手法等、そもそもの知識が十分に身につけていないという点が課題として見えてきた。学習者が自由に知識をつなげていくことができるよう、より一層丁寧に汎用的な知識を身につけさせていく必要がある。

#### 四 おわりに

稿者は、「つながり」を意識して授業づくりを行うことで、本論で述べた実践以外にも、意図した通りに知識を結びつけ、学びの深まりを実感する学習者の姿、そして、意図を超えて、知識をつなげ、学びを紡いでいく学習者の姿を見ることができ、日々嬉しく思っている。しかしながら、後期の単元計画、他学年の授業、そして他教科等、まだまだ「つながり」をもたせられる部分は多数存在する。学習者と、さらに楽しく深く学ぶことができるように、今後も「つながり」を意識して授業づくりを行っていきたいと思う。

参考文献

- ・ 田村学『深い学び』（東洋館出版社、2018）
- ・ 『国語2』（光村図書、2017）

（広島市立温品中学校）